

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	映像構成・演出学及び演習 ¹ (Image Expression and Exercises.)	授業コード	P140351
担当教員名	小島 康史	科目ナンバリングコード	P140300
配当学年	2	開講期	後期
必修・選択区分	コース必修	単位数	3
履修上の注意または履修条件	「映像企画・取材学」、「映像機器学及び演習」の単位を修得していることを履修条件とします。		
受講心得	娯楽作品ではなく主にドキュメンタリー作品を中心に、テレビ、ビデオ、DVD、映画などの身近な映像メディアや映像作品を視聴し、それぞれの作品に設定されている「テーマ」と「作家的性」を考えながら見る習慣を付けてください。また、視聴を通して印象に残った構成やカメラアングルなどをメモしておきましょう。また、長い時間をかけて作品を制作します。ことにグループで制作する作品が中心なので欠席をしてグループのメンバーに迷惑をかけることのないようにしてください。		
教科書	教科書は使用しませんが、必要な資料は適宜配布します。		
参考文献及び指定図書	情報映像学入門 佐々木成明著 オーム社 よくわかる映像コンテンツ制作入門 映像情報メディア学会編 オーム社 映像制作入門 鈴木誠一郎、喜多千草著 ナカニシヤ出版 図解「実践」映像ライティング 桜井雅章著 玄光社 映像カメラマンのための構図完全マスター 益子広司著 玄光社 本物の表現力を育てる映像撮影技術 益子広司著 玄光社 映像編集の教科書 井上秀明著 玄光社 映像編集の秘訣1 (協)日本映画・テレビ編集協会編 映像編集の秘訣2 (協)日本映画・テレビ編集協会編 めがせ映像クリエイター コマーシャルフォト責任編集 玄光社 映像クリエイター実践講座 コマーシャルフォト責任編集 玄光社 一人でもできる映画の撮り方 西村雄一郎著 洋泉社		
関連科目	情報メディア入門、映像企画・取材学、映像機器学及び演習、取材実践・編集学及び演習、情報デザイン総合演習		

授業の目的	<p>ビデオカメラやデジタルカメラ、スマートフォンの高機能化によって、だれでも手軽に動画制作ができるようになり、多くの人々が動画制作を楽しんでいます。しかし、ネット上に公開されている完成作品を見るかぎり作品の質にはバラツキが多く、残念ながらほとんどの作品は自己満足に終わっています。</p> <p>コンテンツ・クリエイターを目指す学生諸君が制作する映像は、それらの作品群とは異なり、あくまでもコミュニケーションツールです。つまり、「観客に被写体について感じさせる」という作用が求められています。</p> <p>本学の映像制作教育プログラムが諸君に求めているものは、映画やドキュメンタリーの核となる『人間を見つめる眼差し』を養成することです。どんな映像作品においても、基本的には人が主役であり、その人物をどのように描いていくか、映像制作者側の作家的性が問われていきます。したがって、まず先入観を排除した多角的な調査(生い立ちや周辺からの人物像)からの情報を元に、テーマを選び出し、象徴的なエピソードを盛り込んだドラマを紡ぎださなければなりません。さらに諸君が制作する映像作品は、表現に芸術的なセンスが求められ、被写体に対する深い眼差しを持ち合わせなくてはなりません。</p>
授業の概要	<p>本科目では、その作家的性を磨く演習としての位置付けから「写真と音声を基田」『1問研究』がこの科目では、通常の映像作品同様、0からスタートして作品を完成させます。主題は大学周辺で取材が出来る人物を探し出し、取材の了承を取り付けます。対象人物(被写体)の優れている点や面白い点を主眼にした人間を研究するドキュメンタリー作品を制作することを目的とする。映像を写真に置き換えて、本人及び周辺取材を重ねたインタビュー音声素材を元に、18分程度の作品を制作する。まずは、企画探しを全員で行い、プレゼンテーションを行います。そこでのディスカッションを元に再調査を進め、優れた企画を通すことでグループが形成されます。教員は学生と常にディスカッションをし、作品を細部にわたって検討します。実際の制作を行うのは、学生のみなさんです。時には皆の力を借りながら、自らの頭で考えアイデアを出し、計画を立て、粘り強く制作してください。</p> <p>ここまで学んできた映像制作に関する知識やスキルをフルに使って作品の完成を目指します。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：ガイダンスおよび企画探し 2週目以降の実践的な授業の進め方を説明する。 実習の企画探しを行い、他のメンバーに対して企画の優位性についてまとめる。	新聞や雑誌の人物紹介記事を精読する。
第2週：映像制作実践	

<p>映像作品の実制作(企画、絵コンテ作成、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。</p>	<p>進行中の作品に関する調査・準備など。 プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。</p>
<p>第3週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。</p>	<p>進行中の作品に関する調査・準備など。 プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。</p>
<p>第4週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。</p>	<p>進行中の作品に関する調査・準備など。 プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。</p>
<p>第5週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。</p>	<p>進行中の作品に関する調査・準備など。 プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。</p>
<p>第6週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。</p>	<p>進行中の作品に関する調査・準備など。 プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。</p>
<p>第7週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。</p>	<p>進行中の作品に関する調査・準備など。 プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。</p>
<p>第8週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。</p>	<p>進行中の作品に関する調査・準備など。 プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。</p>
<p>第9週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。</p>	<p>進行中の作品に関する調査・準備など。 プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。</p>
<p>第10週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。</p>	<p>進行中の作品に関する調査・準備など。 プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。</p>
<p>第11週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。</p>	<p>進行中の作品に関する調査・準備など。 プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。</p>
<p>第12週：映像制作実践</p>	

映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。	進行中の作品に関する調査・準備など。プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。
第13週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。	進行中の作品に関する調査・準備など。プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。
第14週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。	進行中の作品に関する調査・準備など。プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。
第15週：映像制作実践 映像作品の実制作(企画、撮影準備、撮影、編集、仕上げ)を行います。作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。	進行中の作品に関する調査・準備など。プロジェクト管理ノートに作業内容、予定、気づきなどを記入する。
第16週：作品講評 完成した各チームの映像作品を講評し、映像表現上の構成や演出に関するポイントなど	プロジェクト管理ノートに完
授業の運営方法	(1)授業の形式 「演習等形式」 (2)複数担当の場合の方式 (3)アクティブ・ラーニング 「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない
備考	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	・制作にあたって、何が必要かを考えることができる。
【知識・理解】	・明確な企画意図を持つことができる。 ・企画意図にしたがって、効果的な構成を考えることができる。
【技能・表現・コミュニケーション】	・映像で訴えるための適切な表現を決定することができる。 ・チームで円滑な制作を実践できる。
【思考・判断・創造】	・企画意図を実現できる(想定した対象に、伝えるべき情報を伝えることができる)。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	95点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		30点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		30点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。			25点	

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	[Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	